



# カジカの学君

V o l . 3 0

発行元 特定非営利活動法人 加治川ネット21  
 〒957-0345 新潟県新発田市小戸886-1 TEL0254-31-4111 FAX31-4088  
 ホームページ URL <http://www.inet-shibata.or.jp/~kjn21/> E-mail [kjn21@ml.shibata.ne.jp](mailto:kjn21@ml.shibata.ne.jp)

会費振込先 郵便局振替口座 00500-5-35812 株式会社第四銀行 新発田東支店 普通口座1196959

## 新年あけましておめでとうございます。 今年もよろしくお願ひいたします。

昨年は、当会にとっては重要な節目の年となりました。4月に「みどりの日」自然環境功労者環境大臣表彰をいただき当団体も地域に根ざした環境団体として一定の評価を得られたとありがたく思っています。

また、新潟県や新発田市、各自治会、水土里ネット（土地改良区）などとの共催事業として地域の生き物観察会や勉強会なども数多く実施させていただきました。

今年も地域のみなさんと連携しながら阿賀北地域のよりよい自然環境のあり方を考えていきたいと思っています。

理事長 若月 学

## 06年度総会と高澤大介氏講演会のご案内!!

新たな一年間の始まりです。このたびは、高澤大介氏（菊水酒造（株）代表取締役）を講師に新発田地域の自然がもたらす恵みや地元企業として、魅力ある阿賀北地域を創造していくことの優位性などを熱く語っていただくことになりました。講演会は、一般聴講も可能です。

皆さんお誘い合わせの上、ご参集ください。

- ・と き：2006年 2月 5日（日）
- ・と ころ：豊谷殿（新発田市諏訪町1-8-10）
- ・定期総会：14：30～15：30
- ・講演会：15：30～16：30
- ・懇親会：17：00～
- ・懇親会費：4,000円
- ・申し込み：電話、FAX、Eメールにて事務局までお願いします。  
 TEL 0254-31-4111（江口）  
 FAX 0254-31-4088  
 Eメール： [kjn21@ml.shibata.ne.jp](mailto:kjn21@ml.shibata.ne.jp)



## 「私の加治川」写真コンテスト

昨年の10月27日（木）、新発田市ボランティアセンターで、私の加治川実行委員会による上期の審査が行われました。

今回の上期の応募件数は70数点でしたが、すべて作品にはプロ顔負けの構図で撮影されたものや生活感あふれるもの、在りし日の加治川の桜などすてきなものばかりでした。

田中正雄実行委員長からは選考にあたり、このたびは、まだまだ上期と言うことで出展数は少ないですが、締め切り間近に殺到するものです。文化と歴史のある新発田地域である事からも、お宝が次々に出展されるだろう」と最終選考の豊富としました。



～新発田広域環境フェア ‘05～

## 加治川流域の生き物大集合！

10月2日、新発田市カルチャーセンターを会場に新発田広域環境フェア2005が開催され、加治川ネット21は、加治川流域に棲息する様々な水辺の生き物を紹介するブースを設置しました。

今回は、虹色フェスタとの同時開催でもあり、隣のアリーナでは元気なマーチングバンドや和太鼓などの演奏が行われていました。

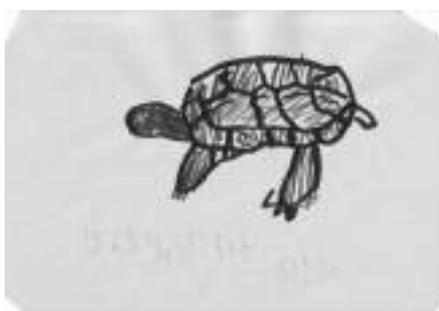
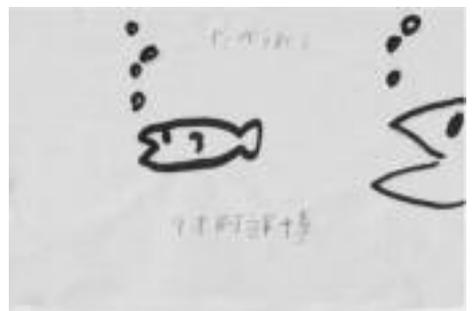
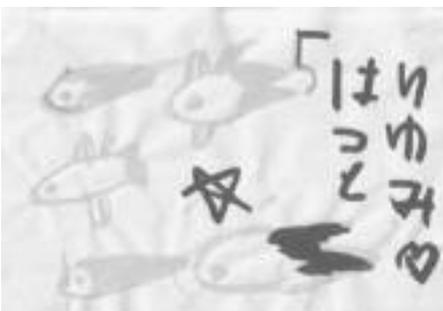


ブース内には水辺の生き物図鑑や水辺の昆虫図鑑などを広げたお絵かきコーナーを設置したところ、家族連れや演奏を終えた子供たちがステキなイラストを描いてくれました。



市外から訪れたというお客様もいて、あいにくの天気ではありましたが、たくさんの方々が加治川流域の魚たちを食い入るように眺めていきました。

### 水辺のイラストギャラリー



50枚近くあるイラストの一部を紹介します。  
描いてくれたみなさん、ステキなイラストありがとうございました。



### 新たに入会された方を紹介します。

阿部 秀雄 さん (加茂市)    高橋 範行 さん (胎内市)  
三扶 将彦 さん (新発田市)

## 新入会員さん紹介

このたび、かわいい小学2年生の三扶君が加治川ネットの正会員として入会しました。

三扶君は、10月に行われた阿賀北池沼調査（加治川地区）に参加しました。さかなが大好きでおまけにさかなの絵を描かせたら天下一品。11月の「どろんこ池の生き物調査」にも、悪天候のなか、参加しました。

いろいろなイベントを通して、阿賀北地域の宝物を探そうね。



## 加治川ネット21の活動

2005年9月1日～11月30日

### 9月の事業

- 9月01日 9月定例会
- 9月02日 羽越河川国道事務所事業打ち合わせ
- 9月04日 阿賀北池沼調査（加治川地区）事前踏査
- 9月07日 県市ヘイバトミヨ生息地説明
- 9月13日 羽越河川国道事務所事業打ち合わせ
- 9月15日 新発田市まちづくり支援事業説明会
- 9月17日 当会組織運営委員会開催
- 9月20日 会報誌「かじかの学君」29号発行
- 9月21日 水土里ネット豊浦郷、荒橋小学校、事業打ち合わせ
- 9月26日 県農村整備部「ふるさとの生き物観察会」打ち合わせ
- 9月28日 「太齋地区フォアンポンド」水土里ネット豊浦郷立合

### 10月の事業

- 10月01日 ふるさと生き物観察会開催
- 10月02日 新発田広域環境フェア 開催
- 10月04日 理事会「イバトミヨ保全地、収支規定について」
- 10月06日 定例会
- 10月06日 「ほ場整備について打ち合わせ」水土里ネット豊浦郷
- 10月08日 阿賀北池沼調査 開催
- 10月08日 理事会「イバトミヨ保全地について」
- 10月11日 「イバトミヨ保全地について」水土里ネット豊浦郷
- 10月11日 総合学習 米倉小学校第3学年

- 10月14日 ニコタン大感謝祭ガス展：環境展併設（設え）
- 10月14日 羽越河川国道事務所 事業打ち合わせ
- 10月16日 きのご観察会と日本酒文化探訪
- 10月17日 ニコタン大感謝祭ガス展：環境展併設10/15～17開催
- 10月26日 新発田準倫理法人会にてセミナー講演
- 10月27日 「私の加治川」写真コンテスト上期選考会
- 10月26日 「新発田広域環境フェア05」反省会
- 10月26日 水土里ネット豊浦郷「ブラックバス駆除作戦」について
- 10月30日 新発田市ボランティアフェスティバル

### 11月の事業

- 11月04日 新発田市立猿橋小学校第3学年「総合学習」
- 11月11日 ブラックバス・バスターズ打ち合わせ
- 11月12日 どろんこ池生き物調査大作戦!!
- 11月12日 加治川ネット21技術部会 開催
- 11月15日 ブラックバス実態調査（主催：八桜会）
- 11月15日 「天辻川生き物大移動について」水土里ネット豊浦郷
- 11月16日 加治川ネット21文化部会
- 11月17日 「17年度まちづくり活動支援事業中間発表会」
- 11月19日 第6回南東北「川、水環境」ワークショップ
- 11月26日 第1回（仮称）まちづくり条例市民勉強会（新発田市）
- 11月27日 加治川ネット理事会開催

## 猿橋小学校児童、「ホタルの里へ」

11月4日（金）、秋空の晴れ渡る中、猿橋小学校第3学年の児童たちが加治川ネット事務局を訪れ、「ホタル」についての学習をしました。この「総合的学習」の講師は若月理事長が担当しました。事務局に常設してある絶滅危惧種のホトケドジョウやアカハライモリなどを珍しそうに見ながら授業開始。ホタルの生態について一通り学習した後、事務局の近くにあるホタル発生場所を訪れ、みんなでタモ網を使い雑魚すくいをし、カワニナやヤゴ、サワガニ、とホタルの幼虫も1匹捕まえることができました。

児童たちの通う猿橋地域は市内の新興住宅地であり、少し前まで広大な田園でしたが今では面影もありません。

児童たちは、多くの生き物が棲む地域の豊かさを、ちょっと享受したようでした。今度は、「ホタルの乱舞」をみたいと言ってホタルの里をあとにしました。



小川に群がる「カワニナ」



ゲンジボタルの幼虫を見つけました

～新発田ガス ニコタン大感謝祭ガス展2005～

## 加治川ネット21「癒しの空間」を創出！

10月15日～17日、新発田市コモタウンプラザにて新発田ガス（株）主催のニコタン大感謝祭ガス展2005に加治川ネット21のブースを出展しました。

ブースでは「ふるさとの川を美しく」をコンセプトに、新発田地域の大動脈である加治川流域に棲んでいる生き物の紹介、まちうら散策やまちづくり活動が一目でわかるパネルを展示しました。

主催者から癒しの空間として子ども連れやお年寄りに特に好評であったと評していただきました。



# 阿賀北池沼調査2005＊加治川地区編＊

10月8日（土）、加治川地区公民館を会場に、阿賀北池沼調査・加治川地区編『環境学習会』が開催されました。

当初の計画では、秋晴れの青空の下加治川地区の農業用水路などで生き物調査を実施する予定でしたが、当日はあいにくのドシャ降り…。急遽、自然環境学習会に変更することになりました。



雨の中、スタッフが大天城公園周辺の水路で捕まえた生き物を広げて水質調査や生き物分類調査を行ったところ、カジカ、ドジョウ、シマドジョウ、オニヤンマのヤゴ、ナベブタムシなどの他、ヘビトンボのヤゴまで入っていました。



短時間の調査ではありましたが、毎年ホタル観察会も行われている大天城公園周辺には生態系が保たれた豊かな水辺環境が残っていることを確認することができました。

引き続きPP（パワーポイント）を使った環境学習会に移りました。PPでは、加治川流域に棲む様々な生き物を写真で紹介しながら、棲んでいる環境や水質によって生き物の種類が違うこと、それぞれの生き物の特徴などを学習しました。

続いては、工作タイムです。

まずは、ペットボトルを使ったトラップを作りました。このトラップは、五十公野公園などのイベントでもよく利用しますし、その威力は実証済みです。スタッフの手を借りながら、無事全員がトラップを完成させました。

2つ目は押し花名刺の作成です。でも男の子たちは、植物では飽きたらず、大胆にもドジョウやスナヤツメ、川虫などの標本を植物の代わりに台紙に貼り付け、とてもユニークな名刺を作成していました。



今回は加治川地区公民館との共催でした。皆様、ご協力ありがとうございました。

## きのこ観察会及び日本酒探訪

10月16日（日）、二王子山麓できのこ観察会が行われました。前日の雨で下草がまだ濡れている場所をかき分けていくため完全防水の身支度で松林に分け入って行きました。

今回のきのこの採取にあたり宮野理事より、きのこの種別や見分け方及び採取の注意事項を受け、斜面に足を取られながらの採取となりました。



猛毒のきのこが身近にあることにもびっくりしました。

二時間ばかり里山には行って収穫しましたが残念ながらマツタケはありませんでした。

前日に宮野理事と渡辺両理事によるマツタケが一本採取されていましたが、素人にはやはり難しいものだと思います。

昼過ぎに事務所に戻り、採取したものを広げて一通りの分類をしました。

きのこは多くの亜種があって本のおりに見分けることは容易には出来ないようです。

一番多く取れたスギヒラタケをなべにいれて食べることにしました。

いろいろニュースでいわれてはいますが、今まで食べられていたものですので特に問題はないということで食べることにしました。味がしみて特に取れたてはなんでもおいしいものです。

待望のマツタケは焼いてその香りを楽しんだり、辛党には日本酒につけたりと、わずか1本のマツタケでしたが、秋の味を銘々堪能しました。

きのこづくしのご飯と汁をいただき、午後の宴会は夕方近くまで続きました。

食後は特に体調に異変も無く食あたりしませんでした。



## 新発田準倫理法人会で講演

10月26日（水）早朝6時、新発田市・長江を会場に新発田準倫理法人会「第115回経営者モーニングセミナー」が開かれました。モーニングセミナーの講話者として若月理事長が「次代に引き継ぐ自然環境」と題し、25名の参加者の前で話しました。

若月理事長からは、加治川ネット21設立の経緯や新発田地域の自然環境の優位性、今後の課題などを参加者の方々にわかりやすく話しました。



～新発田社会福祉協議会～

## ボランティアフェスティバル

10月30日（日）、新発田市カルチャーセンターを会場に開催された新発田市ボランティアフェスティバルは加治川ネット21も所属するボランティア連絡協議会や新発田市社会福祉協議会が主催となって実施するもので、加治川ネット21では3名がスタッフとして参加しました。

メイン会場のアリーナでは、市内で活動する様々な福祉ボランティア団体のブースがあり、ステージでは、和太鼓演奏やマジックショーなども行われていました。

エントランスホールでは、献血の呼びかけや、植物の販売、綿あめとポップコーンのチャリティ販売などもあり、加治川ネット21のメンバーは、剣道場に設置された喫茶店の販売員として汗を流しました。



## 第6回南東北「川・水環境」ワークショップ

11月19日（土）、20日（日）、福島市で開催された第6回南東北「川・水環境」ワークショップに参加しました。

加治川ネット21では、現在取り組んでいるテーマの「イバラトミヨの保全活動について」を発表してきました。発表時間は5分、質疑応答に5分の計10分です。発見の経緯から保全に向けての調査活動等について、パワーポイントを使い説明をしたのですが、最後の結論部分はタイムアップとなり消化不良気味でした。

講評の方からは「何故、人の手を加えられる里山の環境が良いのか」という質問等があり、それらの質疑応答で5分間でした。合計10分という短い時間で、イバラトミヨというさかなを知らない方々に理解して頂く事の難しさを更に痛感したしだいです。（全国のワークショップの場合は発表者数も多いので、発表も3分で更に短いのです。）そんな発表でも、良かったと評価してくれた参加者の方もいてくれたので少々胸をなで下ろしました。

最後に発表したテーマ毎に「賞」が贈られますが、「イバラトミヨ米を早く実現しま賞」を頂きました。

これからもみんなの期待に応えられるように頑張っていきたいと思います。

また、同じ新発田市の「新発田川を愛する会」も参加し、「新発田川をキャンパスにアヤメを咲かそう」というテーマが発表されました。

19日（土）は寒気が入ってきており、行く道すがら雪やあられが降り、自動車のタイヤをスタッドレスタイヤに履き替えておけば安心して行けたと思いました。



## 太齋地区ふるさと生き物観察会

10月1日（土）、曇り空で小雨がちよつと降る中、太齋地区揚水機場と久保地区清水川を会場にふるさと生き物調査を開催しました。

この事業は、太齋地区ほ場整備事業関連で05年春に完成した揚水機場の大きな池に、完成後半年を経て、どのような生き物たちが生息しているのかを検証する観察会でした。

観察会に先立ち、県新発田地域振興局農村整備課 林課長の挨拶、当会の生き物担当の藤田理事から生き物の概要と注意事項についての話があり、その後、早速大きな池の中にみんなで雑魚すくいに入りました。



参加者は、さで網やタモなどを持ち、池の中心部に向かってすごすごと入っていきました。池はポンプで水を汲み出したお陰で、水深が人の膝丈くらいで、泥も10cm位で歩くにも楽に前に進める状態でした。

池の縁際で水草部分にはたくさんのドジョウやオイカワなどが潜んでいました。また、イバラトミヨも確認され、周辺を見ると池の底から湧水が確認できるところもあり、初めてイバラトミヨを見た参加者は歓喜の声を上げていました。

この池で捕まえられた生き物の数や種類などの最終記録は藤田理事にまかせ、観察会は終了。

その後、折角の機会なのでと希望者は久保地区湧水地河川に会場を移しての観察会へ。ここでの講師は当会の永野理事です。「イバラトミヨがいたよ」「あっ、トノサマガエル。これは豊栄や新潟ではもう見られなくなったんだよ」などと説明するたびに参加者は興味を持って覗き込んでいました。初めて参加したという高校生は、川に入りさで網を引き上げ、多様な生き物たちがたくさん捕獲されたことに、「こんなにすばらしい川での体験は初めてだ」と感動していました。



今回の観察会ではいるはずのない錦鯉の稚魚や80センチもある大きなコイも引き上げられました。コイは強いいため、池の中の魚を食べ、その池の生態系を壊します。心無い人、或いはそんなことに無関心の人が放したのかもしれませんが、故意に放流することは絶対にやめてほしいと思いました。

## 他団体との情報交換会

12月3日（土）、新発田地域で活躍されている団体との情報交換を目的として、忘年会が開催されました。

当会理事長の挨拶と乾杯で宴席が始まりました。今回参加してくれた「新発田川を愛する会」「聖籠の子供たちにセーリングを普及する会」などの方々のお話をうかがえてとても有意義でした。また、東京から駆け付けてきてくれた会員の松浦さん、本当にありがとうございました。

昨年は、いろいろな事業で一定の成果が得られました。

今年も、昨年に負けない飛躍の年にしたいものですね。



## 月岡大宮沢堤ブラックバス・バスターズ

12月4日（日）、新発田市の月岡温泉わき（本田地区）にある「大沢堤」でブラックバス駆除作戦が行われました。

当日は、主催団体である「八桜会（本田地区の地元自治会）」の方々、「生物多様性ネットワーク」に所属する環境団体のメンバーなどが大勢集まりました。

今回のバス駆除作戦にあたり、大宮沢堤の水はけ口には大きなヤナ場が設置され、排水とともに外来魚等の流出を阻止する対策が講じられました。

作業に当たった男性陣は、水が抜かれたため池のぬかるんだ泥に腰までつかりながらもたくさんのブラックバスを捕まえました。



参加した地域の子供たちは「ブラックバスの名前は聞いたことあったけど、実物は初めて見た」と話していました。スタッフから「オオクチバスとコクチバスの見分け方」や「ブラックバスが生態系に与える影響」「生きたまま放流すると罰則がある」などの説明があり、集まった人々がもの珍しそうに説明を受けていたのが印象的です。

今回捕まえた魚は、昔、放流されたゲンゴロウブナの他、外来種のおオクチバスとコクチバスばかりで、ブラックバスの稚魚の他には小さな生き物の姿は殆ど見るできませんでした。

一度放流された外来魚を全て駆逐するのは難しく、今回の調査でもわかるようにそれらが生態系に与える影響は絶大です。どんな理由があっても、絶対に外来種の放流は行わないようにお願いします。

## 第1回（仮称）まちづくり条例市民勉強会

11月26日に開催されたこの勉強会は、（仮称）まちづくり条例の策定にあたり、「新発田をどのような“まち”にしていけば良いのか」「まちづくりとはどうあるべきか」を共に考え、市民がまちづくりに参加しやすい条例を作るための勉強会で、新発田市が開催したものです。

当日、会場（地域交流センター2階ロビー）には約90名が集まり、最初に片山市長から新発田市で取り組んでいるまちづくりに対する考え方を「新発田市まちづくり基本構想（仮設版）」を軸に説明がありました。

続いて、全部で8回行われるこの勉強会の講師であり、条例策定に関するアドバイザーでもある新潟大学大学院実



務法学研究科の馬場健助教授から「まちづくりの担い手は誰か？ーガバメントからガバナンス？へー」というテーマで戦後の高度経済成長期の急激な都市化と、それによって生じた様々な問題、また、地域社会や行政の役割のあり方がどのように変化してきたのか、などの話がありました。

会場で実施されたアンケートでは、「新発田市のまちづくりについて明確なイメージがありますか？」という質問に対し、概ね2/3がある、1/3がないと回答していたそうです。また、そのイメージでは「活力不足」「歴史（城下町）」「明確なイメージがないというイメージ」などに大きく纏められていました。

## 第2回（仮称）まちづくり条例市民勉強会

12月10日に行われた2回目の勉強会では、まず前回のおさらいも兼ねて、講師の馬場助教授から「まちづくりをめぐる考え方と新発田のまちづくり」というテーマで、より具体的な“まちづくり”のイメージと、そこにおける住民参加（住民が果たす役割）について説明があり、実際に地域コミュニティやNPOなど、様々な形で活動を行っている4つの団体から活動事例の発表が行われました。

発表者は、①加治地区まちづくりをすすめる会、②NPO法人 はとの会、③川東レンジャー、そして、④NPO法人 加治川ネット21です。

当会の活動紹介にあたり、当時、新発田地域振興局の上原氏（当会会員）が取り組んでいた「疏水百選」に対する取り組みも紹介され、加治川用水の疏水百選への応募を参加者に呼びかけました。ネットの活動は全体を資料にまとめ、小柳副理事長が会の概要と現在取り組んでいる様々な活動について説明しました。

今回の勉強会では、「まちづくり」は都市という空間をいかにして管理していくかという課題に対し、行政だけが頑張るのではなく、企業や住民、その他の様々な団体が連携して取り組んでいくことの重要性を学びました。



## 05年を総括！理事会開催

11月27日（日）、秋色深まる、阿賀野市村杉温泉「環翠楼」にて理事11人が参加して加治川ネット理事会が開催されました。

当会として2005年に取り組んだ、短期的活動（単発の環境活動や講演会など）、長期的活動（私の加治川「フォトコンテスト」、イバラトミヨの保全活動）、新発田地域振興局や新発田市との協働事業や小学校等での総合的学習など民間受託事業などについて総括をし、次年度の目標、方向性などについて話し合いました。



## 技術部会開催

11月12日（土）、新発田市ボランティアセンターにおいて、9名の参加で加治川ネット技術部会が開催されました。



技術部として取り組んだ2005年事業の「水辺の大楽校」や「イバラトミヨ実態調査」などの反省と2006年の事業計画などを協議しました。

## 文化部会開催

11月16日（水）、新発田市ボランティアセンターで7名が参加して加治川ネット文化部会が開催されました。



文化部として2005年に取り組んだ「マイ味噌作り」や「まちうら散策」などの検証と次年度の事業計画などを話し合いました。

目より情報 \* 会員さんモネットの他にいろいろな活動をしているよ。ちょっと紹介しちゃいます。

## ～花と清流をめざして～ **新発田川を愛する会**



城下町新発田の中心を流れる新発田川は、随分と汚れていますね。昔は子供達の遊び場であり、ホタルが飛び、鮭も遡上する川でした。今、新発田川周辺の子は、川で魚釣りや川遊びの経験があるのでしょうか？新発田川流域で生活している方々は新発田川を見捨て、あきらめていないでしょうか？

そんな現状から「新発田川を何とかしたい」そんな思いで、楽しく、無理せず、出来る事からボランティアを始めました。

まずは、この何とかしたいという気持ちを、市の花”あやめ”に込めて、新発田川の浄化に向けて踏み出しました。

美しい”あやめ”の回廊と、子供達が新発田川で川遊びをするのを夢見ながら・・・。

ーこれまでの活動ー

2004年4月に発足。新発田川に目を向ける活動の一環として”あやめ”プランターを製作し、新発田川沿いの市内各所に設置する他、「あやめ」と「花菖蒲」の違いを学習する為、アヤメ学習会を開催。

2005年、寺町の福勝寺裏の新発田川にあやめを植樹するための土留めとして約5mの粗朶柵を設置。

2006年、6月頃、あやめ 花菖蒲に彩られた新発田川の観賞が期待されております。

会長：和田 秀男

## ～韓国・他門川再生フォーラム～ 「都市河川、清溪川再生に学ぶ」

9月17日(土)、「他門川再生研究フォーラム in 新潟」が新潟市木揚場教会を会場に開催されました。このフォーラムは他門川再生研究会とNPO新潟水辺の会が主催したもので、ソウル市の清溪川(チョンゲチュン)再生までの映像紹介、再生工事に携わった担当官の李龍太氏の講演、そして新潟市長をはじめとした5人のパネリストと3人のコメンテーターによるパネルディスカッションと盛りだくさんの内容でした。

ソウル市内を流れる清溪川(チョンゲチュン)は長さ8.14km。その川に蓋がされ、高架道路が建設されて川は姿を消しました。高架道路は多額の経費と歳月をかけて完成し、ソウル市民にとってなくてはならない生活道路となりましたが、川の再生を公約として掲げた候補が市長に当選し、ソウル市民の多くが川を再生することを後押しする形で、3年前、再生事業がスタートしたそうです。市長の大きな決断にも頭が下がりますが、それを市民が支援しなければできないことですので、市民の力にも驚かされました。

それにしても、道路を解体したら膨大な建材ゴミが出ることになりそうですが、どうするのかと思っていたら、70%は再活用し、最終的には96%まで利用することを考えているそうです。これにはまたまた驚かされました。時間が短かったため、現在、川がどこまで再生されているのかの話まではいきませんでした。首都における大掛かりな再生事業、機会があったら見に行きたいという衝動にかられた話でした。



